

海外研修レポート

産業課 主幹 石川 秀二

「平成29年度市町村職員外国派遣研修」が9月11日(月)から21日(木)11日間の日程で行われ、福島町からは産業課の石川主幹が参加しました。

本研修は、ヨーロッパの地域振興・社会福祉・環境対策を学ぶことをテーマに実施されました。12月号を後編として報告いたします。

【オーストリア】ザルツブルクで、世界的音楽家のモーツァルトが誕生した街です。この街では自主研修を行い、班員4人で街を散策しました。ホーエンザルツブルク城から見下ろす街並みは絶景でした。また、モーツァルトの生家など、旧市街には世界各地から観光客が訪れていました。



最後は、インスブルックで、二度冬季オリンピックを開催している街です。オリンピックのスキージャンプ会場や中世の重要な建造物を見学。ノルトケッテ山では、ケーブルカーで登山し、一面雪景色でしかも吹雪。天気が良ければ絶景を味わうことができるそうで、とても残念でした。



【ドイツ②】帰国までの合間にて、ミュンヘンを視察。マリエン広場にそびえ建つ新市庁舎は、度肝を抜く建造物で、この研修で一番印象のある建造物となりました。また、メイン広場だけあって、人も多かったです。最終日ということもあって、もはや外国人を見てもなんとも思わなくなっていました。



【気候に関し】3カ国とも、14℃くらいの気温で、少し肌寒い程度で済むかと考えていましたが、期間中の多くを「雨」に降られ、寒さが厳しくなりました。

【商業に関し】通貨は全て「ユーロ」だったため、割と楽だった。ヨーロッパのお店は、日曜日が休みなことや、平日も6時前には閉店してしまったりと不便さがあった。コンビニもほとんどなく、スーパーも数が少ない。また、あつさりとした客対応(言葉がわからないのもあるかもしれないが)。逆に日本が丁寧すぎるのかもしれないと早期閉店も逆に労働者には良いのかもと感じた。(単に日本人は働きすぎ?)

【食事に関し】日本でいう洋食で、肉・魚とも、違和感なく食べることができた。そして美味しかった。ただ、備え付けのイモなどの量が多く、完食には苦労した。

【交通に関し】パリの道路事情は驚いた。車がぎゅうぎゅう詰めで、隙間を見つけて入り込み合いをしていた。大都市以外の多くの街では、信号

がない円形交差点が主流で、これも環境対策の一環なのかと感じた。鉄道・飛行機は、係員の雰囲気怖いのと人の多さに、常に乗り遅れそうな不安さがあり、冷や汗であった。

【建造物に関し】各国とも旧市街の建物は高さや外壁色のルール付けにより、統一感とともに隙間なく立ち並んでおり、見応えがあった。歴史的な城や宮殿なども日本では見ることができないようなものばかりで感激した。ただ、ビルやショッピングモールなどは、日本と変わらないかなという印象。

【最後に】帰国の飛行機も遅れ、最後までバタバタでしたが、函館空港に降り立った時には、表現しがたいかなりの安堵感でした。参加することに対し色々考えた今回の研修でしたが、各国での研修はもとより、長い研修を共にした参加者からは強い刺激を受け、道内各地とのつながりが出来たことが大きな収穫となり、無事終了できました。

「完」